

日程	平成 22 年 2 月 24 日 13:00～14:00
訪問先	株式会社コンポストジャパン
担当者	三重中央開発株式会社 事業部 地域開発・農業振興グループ 担当部長 森田氏
バイオマス利活用取組み概要	井村屋製菓から排出される有機性汚泥を原料として、有機肥料を生産している。

1. 説明内容

会社の成り立ち

平成 8 年から三重中央開発株式会社と井村屋製菓株式会社で 50%ずつ出資し、株式会社コンポストジャパンを設立した。井村屋製菓株式会社等から発生する有機性汚泥を堆肥化させることを目的として設立され、施設は三重中央開発株式会社の既存の施設を活用している。現在では、三重中央開発株式会社の 100%子会社となっているが、井村屋製菓株式会社の脱水汚泥を主に取り扱っている。(写真 1)。



(写真 1) 堆肥化施設の概観

堆肥化の方法

搬入してから約 3 ヶ月かけて発酵させ、堆肥を製造している。汚泥の排出先は基本的には井村屋製菓株式会社の汚泥であり、週 2 回程度搬入している。汚泥の副資材としてはもみガラ、コーヒージャコ、珪藻土、細かい木くず等を使用しており、汚泥の含水率などを見て調整を行う。

搬入された資材はショベルやロータリーで攪拌された後、1 ヶ月ほど熟成期間を置き、別に仕分けして 2 ヶ月間発酵させる。発酵温度は冬は 60～70℃、夏は 70℃程度である。発酵促進のための特別な菌は入れていない。30～40t/月の処理能力であり、製品として発送するときには、60%程度の重量に減っている。

製品として出来上がった堆肥は窒素が比較的少ないが、25ha の畑を近くに持っている、三重中央開発株式会社の関連会社である農業組合法人ねぎぼへ出荷している。

周辺への臭気対策として、毎日臭気を計測していることに加え、消臭液の散布や堆肥発酵管理を行っている。家畜の糞尿系は臭気がきついため、取り扱っていない。



(写真 2) 堆肥化施設の内部

2. 所感

本説明会会場は、三重中央開発株式会社の敷地内にあることから、同社のご厚意により、同社の様々なサイクル施設等の見学も行った。敷地が広大であるため、バスに乗った状態で説明を受けたが、作業機械や施設の壁に動物の絵が描かれたり、廃棄物で作られた動物のオブジェクトも敷地内に多数設置されていたりと、地域や見学者に対する配慮・オープンな姿勢が印象的であった。堆肥化施設についても臭気対策等が万全に行われており、確かに臭いも少なく、そのような配慮を感じ取ることができた。